

第 466号

No.(18) 23保環研第3626号

温泉分析書

(鉱泉分析試験による分析試験)

受付 平成24年2月6日

1. 申請者住所		糸島市志摩師吉787番地4						
氏名		進藤伊都子						
2. 源泉名		伊都 温泉 (源泉名)						
湧出地		伊都土地区画整理事業街区番号6街区①、⑧-1、⑧-2						
3. 湧出地における調査及び試験成績 (調査及び試験年月日 平成24年2月6日)								
(1) 知覚的試験		無色、澄明、無味、無臭						
(2) 泉温	16.8℃	気温	14.6℃	(4) 湧出量	72.5 ℓ / min (動力)			
(3) pH 値	6.6	(5) ラドン含有量	37.1 ×10 ⁻¹⁰ Ci / kg (10.2 M-E / kg)					
4. 試験室における試験成績 (分析終了年月日 平成24年2月13日)								
(1) 試験室知覚的試験		無色、澄明、無味、無臭						
(2) 密度	0.9988	(20℃)	(4) pH 値	6.7 (15.0℃)				
(3) 蒸発残留物	206 mg / kg (105℃)							
5. 試料1kg中の成分、分量及び組成								
(1) 陽イオン	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(3) 非解離成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)		
ナトリウムイオン	Na ⁺	23.6	1.03	33.68	メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	45.6	0.59
カリウムイオン	K ⁺	2.4	0.06	2.04	メタホウ酸	HBO ₂	0.3	0.01
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	10.3	0.85	27.80				
カルシウムイオン	Ca ²⁺	22.3	1.11	36.48				
鉄(Ⅱ)イオン	Fe ²⁺	0.0	0.00	0.00	非解離成分計		45.9	0.60
マンガンイオン	Mn ²⁺	0.0	0.00	0.00	溶存物質(ガス性のものを除く) (1)+(2)+(3) 計			262.5 mg
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.0	0.00	0.00	(4) 溶存ガス成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	
					遊離二酸化炭素	CO ₂	37.4	0.85
					遊離硫化水素	H ₂ S	0.0	0.00
陽イオン計		58.6	3.05	100.00				
(2) 陰イオン	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)					
フッ素イオン	F ⁻	0.0	0.00	0.00	溶存ガス成分計		37.4	0.85
塩素イオン	Cl ⁻	35.6	1.01	32.36	成分総計 (1)+(2)+(3)+(4) 計			299.9 mg
臭素イオン	Br ⁻	0.1	0.00	0.04	(5) その他の微量成分			
ヨウ素イオン	I ⁻	0.0	0.00	0.00	総ヒ素 (Asとして)	0.001	mg	未満
硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00	0.00	銅イオン (Cu ²⁺ として)	0.01	mg	未満
チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	0.0	0.00	0.00	鉛イオン (Pb ²⁺ として)	0.01	mg	未満
硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	21.5	0.45	14.42	総水銀 (Hgとして)	0.5	μg	未満
炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	100.8	1.65	53.18	カドミウム (Cdとして)	0.01	mg	未満
炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	0.0	0.00	0.00				
陰イオン計		158.0	3.11	100.00				
6. 泉質	単純弱放射能冷鉱泉(中性低張性冷鉱泉)							
7. 禁忌症及び適応症	別表による							
8. 備考								

平成 24年 2月 15日

試験者 石橋融子

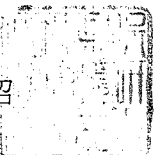
登録番号

福岡県第2号

〒818-0135 太宰府市大字向佐野39 TEL(092)921-9940

福岡県保健環境研究所長

平田輝昭



温泉分析書別表

1. 源泉名	伊都 温泉
2. 源泉所在地	伊都土地区画整理事業街区番号6街区①、⑧-1、⑧-2
3. 温泉分析申請者	進藤伊都子
4. 泉 質	単純弱放射能冷鉱泉(中性低張性冷鉱泉)
5. 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。	
浴用の禁忌症	<p>泉質別禁忌症</p> <p>温泉の一般的禁忌症 急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)</p>
浴用の適応症	<p>泉質別適応症</p> <p style="text-align: center;">痛風、動脈硬化症、高血圧症、慢性胆嚢炎、胆石症、慢性皮膚病、慢性婦人病</p> <p>療養泉の一般的適応症 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進</p>
飲用の禁忌症	泉質別禁忌症
飲用の適応症	<p>泉質別適応症</p> <p style="text-align: center;">痛風、慢性消化器病、慢性胆嚢炎、胆石症、神経痛、筋肉痛、関節痛</p>
浴用上の注意事項	<p>ア 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。</p> <p>イ 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。</p> <p>ウ 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわり又は浴湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。</p> <p>エ 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。</p> <p>(ア)入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長しよよい。</p> <p>(イ)入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。</p> <p>(ウ)入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。</p> <p>(エ)入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。</p> <p>(オ)次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ、高度の動脈硬化症 ロ、高血圧症 ハ、心臓病</p> <p>(カ)熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。</p> <p>(キ)食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(ク)飲酒しての入浴は特に注意する</p>
飲用上の注意事項	<p>ア 飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。</p> <p>イ 温泉飲用の1回の量は、一般に100mlないし200ml程度とし、その1日の量はおおむね200mlないしは1000mlまでとすること。</p> <p>ウ 強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、又は希釈して飲用すること。</p> <p>エ 以上のほか、飲用については次の諸点について注意すること。</p> <p>(ア)一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(イ)含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。</p> <p>(ウ)夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。</p>

(注)この別表は、温泉法第18条による掲示に必要な参考資料となるものである。